

シハ、壬申歲ナリシガ如シ、記シテ疑ヲ存ス、

〔二代要記天武〕白鳳元年壬申三月、備後國進白雉、仍改爲白鳳、

○按ズルニ、一代要記以下、壬申ノ歲ヲ以テ白鳳元年ト爲ス說ナリ、

〔皇代記天武〕白鳳十三年、元年壬申、備後國獻白雉、仍爲瑞改元、

〔二十二社註式〕日吉社中 山家最要略記、日吉七社降臨垂跡時代事、扶桑明月集云、中 第四十

代天武天皇即位白鳳元年、中 近江國滋賀郡垂跡、

〔源平盛衰記十四〕三井寺僉議附淨見原天皇事、

宮武○天 名乗テ憑マントオボシテ、丸ハ淨見原ノ宮也、深ク汝ヲ憑ト宣ヘバ、長者畏テ聲ニ取奉テ、

隱シ置奉ル、中 其後長者、東夷ヲ催テ、白鳳元年壬午、始テ不破關ヲ置テ、美濃國ニテ軍構シ給ヘ

リ、中 宮都ニ上給ヒ、即位給ニケリ、天武天皇トハ是也、略○下

○按ズルニ、壬午ハ、上文引ク一代要記、皇代記、二十二社註式等ニ據ルニ、壬申ノ誤ナラン、日本

紀ニ據ルニ、天武帝ノ壬申ハ、即位元年ニシテ、壬午ハ、十一年ニ當レリ、

〔二十二社註式〕香椎宮中 第四十代天武天皇白鳳二年酉癸二月八日、高良託宣、譽田天皇御宇、爲

晨昏武略之健將、

〔袋草子〕大嘗會歌次第 大嘗會、天武天皇御宇白鳳二年癸酉十一月始之、但歌不見、

〔二十二社註式〕丹生社中 人皇四十代天武天皇白鳳四年乙御垂跡、

〔扶桑略記天武〕二年癸酉三月、備後國進白雉、仍改爲白鳳元年、白鳳合至十四年、

○按ズルニ、扶桑略記以下、癸酉ノ歲ヲ以テ白鳳元年ト爲ス說ナリ、

〔水鏡天武〕其年の八月に、御門は野上の宮に移り給たりしに、つくしより足三ありし雀の赤を奉りしかば、年號を朱雀元年と申侍りし、其明年癸酉の三月に、備後國より白雉を奉りたりしに